

2024年12月期第1四半期 決算業績報告

小林製薬株式会社

執行役員 CFOユニット ユニット長
中川 由美

2024年5月10日

紅麹関連製品に関して

この度は、当社紅麹関連製品に関してお客様やお取引先様をはじめ、当社に関係する様々な皆様に多大なるご迷惑、ご心配をお掛けしており、改めて深くお詫び申し上げます。

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様にご心からお悔やみ申し上げます。また、現在も入院中、治療中の方の一刻も早いご回復をお祈り申し上げます。

社長の小林です。3月29日の2回目の記者会見以来ご挨拶ができておらず大変失礼しております。

本件についてあらためてお詫び申し上げるとともに、これまでの経緯や現在の対応状況につきまして直接ご説明を申しあげたく、急遽参加させていただきました。

この度は、当社紅麹関連製品に関して、お客様やお取引様をはじめ、当社に関係する様々な皆様に多大なるご迷惑、ご心配をお掛けしており、改めて、深くお詫び申し上げます。

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様にご心からお悔やみ申し上げます。また、現在も入院中、治療中の方の一刻も早いご回復をお祈り申し上げます。

これまでの経緯

これまで下記の通り対応を行ってまいりました。引き続き、社長を本部長とする対策本部にて、全社的な体制で対応に当たってまいります。

1月中旬～2月上旬	紅麹コレステヘルプを摂取していた患者について、医師やご本人から当社に連絡以降、原因について様々な仮説・検証を進めてきた
3月中旬	一部の製品ロットおよび紅麹原料ロットにおいて、想定していない成分の存在を示す分析結果を検出
3月22日	臨時取締役会を開催、紅麹製品の使用中止のお願いと自主回収を公表、記者会見（1回目）を開催
3月27日	大阪市が当社に対し、商品の回収命令を発出
3月29日	記者会見（2回目）を開催
3月30、31日	食品衛生法に基づき、行政より当社工場へ立入検査
4月26日	臨時取締役会で、事実検証委員会の設置を決議

資料3ページをご覧ください。

これまでの経緯をまとめております。

今年の1月中旬頃から、当社製品の紅麹コレステヘルプを摂取されたお客様や、そのお医者様より、腎疾患等の症状が見られるとのご連絡がございました。当社としては直ちに調査を開始し、以降、製品と腎疾患等との関連性や原因など、正確な情報を消費者の皆様にご提供するため、お医者様へのヒアリングや外部有識者への相談などを通じて、様々な仮説・検証を進めてまいりました。

その後、3月中旬に一部の製品ロットや紅麹原料ロットから当社の想定していない成分の存在を示す分析結果が検出されたことを受けまして、お客様の健康被害の拡大防止を最優先に考え、3月22日の取締役会で紅麹関連製品の自主回収を決議し、同日、使用中止のお願いと自主回収の公表及び記者会見を行いました。

その後も、私を本部長とする社内の対策本部において、全社体制で「被害の拡大防止」、「健康被害に遭われた方への対応」にあたりるとともに、厚生労働省主導で行われている原因究明に貢献すべく、同省に対して必要な情報提供を行っております。

そして、既にリリースしております通り、4月26日には取締役会にて事実検証委員会の設置を決議いたしました。

取締役会主導による調査・検証

本件における一連の当社の対応に関して、
コンプライアンス、コーポレートガバナンスについての
社内外からの指摘も踏まえ、厳正に対処してまいります

■ 方針

下記の事項につき、取締役会が主導的に調査し、事後的検証を実施

- ・最初に症例報告がなされて以降の一連の対応につき、健康被害の拡大防止の観点、また、お客様・お取引先様・株主様をはじめとするステークホルダーの皆様方のご信頼に応えるという観点で、適切な対応がなされたと言えるか
- ・これまでの食品衛生法違反による行政処分（回収命令）のほか、その他の法規制の遵守に問題はなかったか
- ・当時の意思決定やその基盤となるコーポレートガバナンスに問題はなかったか

■ 事後的検証における重要な検討課題

- ① 症例報告後の事実経過の調査
- ② 内部統制システム・品質管理体制の精査
- ③ 法規制への適合性確認
- ④ 公表時期の是非

<事実検証委員会の構成>

委員長	貝阿彌 誠	弁護士（元東京地方裁判所所長）
委員	北田 幹直	弁護士（元大阪高等検察庁検事長）
委員	西垣 建剛	弁護士

■ 調査・検証の体制

- ・①②については、証拠に基づく事実認定が必要となるものであり、できる限り早急に独立性・客観性・実効性のある調査・検証を行うべく、法曹三者出身の専門家からなる事実検証委員会を設置し、調査等を委嘱
- ・③④については、当面、当社が行政による調査に公正かつ全面的に協力するよう、取締役会としての監督義務を尽くすことに注力し、取締役会としても外部専門家の意見を得るなどしながら、法規制への適合性や公表時期の是非について独自に検討

資料 4 ページをご覧ください。

本件における一連の当社の対応に関して、コンプライアンス、コーポレートガバナンスについての社内外からの指摘も踏まえて厳正に対処するため、株主様から当社の経営を委ねられた取締役会の職責を果たすべく、取締役会が主導的に調査をし、事後的検証を行います。

この調査・検証にあたっては、私も含む社内取締役は審議・決議に加わらず、社外取締役 4 名のみにて調査・検証を進める体制となります。

調査・検証の方針は、上段に記載の通り「最初に症例報告がなされて以降の一連の対応が適切であったか」「法規制遵守やコーポレート・ガバナンスに問題はなかったか」などです。

重要な検討課題の 1 点目は、最初に症例報告がなされた 1 月中旬以降から 3 月 22 日の自主回収公表までの期間における事実経過の調査、2 点目は、内部統制システムや品質管理体制の精査になります。

この 2 点については、証拠に基づく事実認定が中心となることから、独立性・客観性・実効性のある調査・検証を行えるよう、裁判官や検察官出身の方を含む弁護士 3 名からなる事実検証委員会が調査を行います。

そして、3 点目は関連法規制を適切に遵守したといえるか、4 点目は 3 月 22 日の公表時期が適切であったといえるか、についてです。それぞれ外部専門家の意見も得ながら取締役会にて検討いたします。

これらの調査・検証結果を踏まえ、再発防止策の策定、今後のコーポレートガバナンスや経営体制などを検討し、できる限り早期に、その結果を公表することができるよう最大限、努めて参ります。

これらの調査・検証は、社外取締役4名のみにより進められるため、社内取締役である私自身は、この調査・検証の審議・決議には加わりませんが、全面的に協力してまいり所存です。

今後も本件に関して全社一丸となって取り組み、関連するすべての皆様からの信頼回復に努めてまいります。

改めまして、この度は大変な問題を発生させ、皆様にご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、心よりお詫び申し上げます。

大変申し訳ございませんが、私はこちらで失礼させていただきます。

国内事業

（カッコ内の数字は対前期）

トータルでは+12億（+4.9%）の増収。

- ・ 訪日客の増加に伴ってインバウンド需要が増加（+13億）
- ・ 「Sawaday+ & Emotion」「ヒプキユア」等の新製品が貢献（+8億）
- ・ 暖冬によるカイロの減収（▲4億）
- ・ その他既存品の売上減（▲2億）
- ・ 通販の減収（▲3億）



国際事業

（カッコ内の数字は対前期 ※為替影響含む）

トータルでは円安による為替換算影響もあり+17億（+21%）の増収。

- ・ 米国 : Focus社のサプリ、医薬品が売上貢献（+11億）
- ・ 中国大陸 : 昨年の熱さまシート特需の反動により微減収（▲0.2億）
- ・ 香港地域 : 中国大陸からのインバウンド需要が貢献し増収（+1億）
- ・ 東南アジア : 各国で熱さまシートやアンメルツが伸長し増収（+4億）

CFO の中川です。私から 2024 年 12 月期第 1 四半期の決算業績についてご報告させていただきます。

5 ページは、第 1 四半期の業績サマリーとなります。

国内はトータルでプラス 12 億円、プラス 4.9%の増収を実現し、国際はプラス 17 億円、プラス 21%の増収を実現いたしました。

国内事業は、この中に、インバウンド需要の増加 13 億円を含み、また Sawaday +& Emotion、ヒプキユアなどの新製品はプラス 8 億円と貢献いたしました。これらのプラスが、カイロの暖冬の影響による減収や通販の苦戦等をカバーして、トータルでは増収となりました。

国際事業は、為替影響もございますが、中国大陸を除くすべての地域におきまして、増収の結果を得ることができました。

後ほど、各国のページでご説明させていただきます。

紅麹関連製品回収等に伴う特別損失38億円の計上により、増収減益。

単位：億円	2023年 1-3月	2024年 1-3月		
	金額	金額	対前期	利益率
売上高	334	364	+9.0%	-
営業利益	50	50	▲0.6%	13.8%
経常利益	51	54	+5.7%	15.0%
当期純利益	36	9	▲72.9%	2.7%
EBITDA ※	64	68	+5.9%	18.7%
国内売上高	249	261	+4.9%	-
国際売上高	83	101	+21.4%	-

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

連結の業績となります。

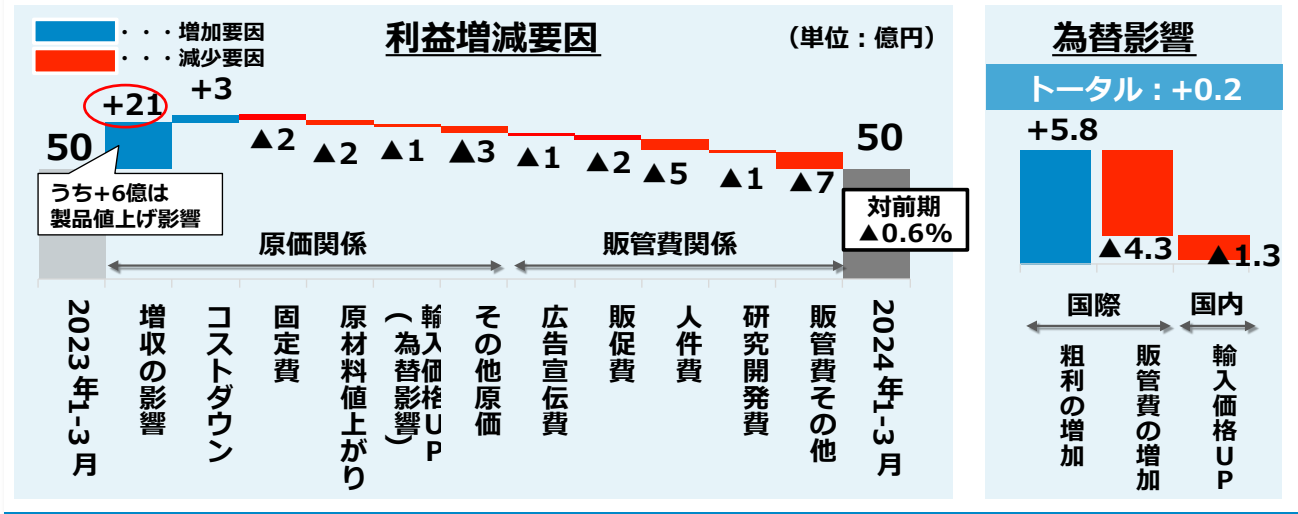
第1四半期の売上高は364億円で、前年度の比較ではプラス9.0%、

営業利益は50億円でマイナス0.6%

当期純利益におきましては、第1四半期に紅麹関連製品回収等に伴う特別損失38億円を計上し9億円、マイナス72.9%の減益の結果となりました。

第1四半期に計上した特別損失は、3月末までに発生したものだけでなく、4月以降に発生を見込むものにつきましても、合理的に見積もれるものにつきましては計上をしています。

原材料値上がりの影響や人件費の増加により微減益。
23年10月にM&AしたFocus社の償却費も影響。



続きまして、連結営業利益の増減要因です。

第1四半期の営業利益は50億円となり、前年50億円とほぼフラットの結果となりました。

増加要因を青のブロック、減少要因を赤のブロックで示しています。

青のブロックの増収貢献21億円や、コストダウン3億円等が、赤のブロックで示しております原材料値上がりや人件費等の減益要因を吸収いたしました。

為替の影響は、プラスとマイナスの要素がありましたが、利益においてはネットではほぼゼロの結果となっております。

ヘルスケアと日用品が増収。カイロと通販が減収。

(単位：億円)		2023年	2024年	
		1-3月	1-3月	
		金額	金額	対前期
売上高	ヘルスケア	140	155	+ 10.6%
	日用品	81	85	+ 5.4%
	カイロ	8	4	▲ 49.6%
	通販	19	16	▲ 16.0%
	合計	249	261	+ 4.9%
営業利益計		36	38	+ 6.8%
(率)		14.5%	14.7%	－

国内事業をみていきたいと思います。

第1四半期の売上はトータルでは、261 億円の 4.9%増収の結果となりました。

ヘルスケア、日用品ともに、前期と比較して増収となりました。

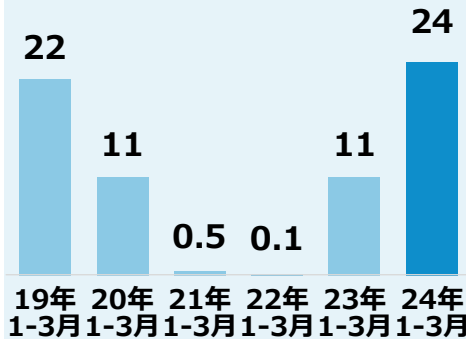
カイロは暖冬の影響があり、前期のほぼ半分、通販は 16 億円でマイナス 16%となりました。

営業利益は、38 億円で、プラス 6.8%の結果となりました。

訪日客の増加に伴い、コロナ前よりも需要拡大。
新製品でインバウンドの兆候が見られるものも。
各言語に対応したPOPを設置。

インバウンド売上の推移

（単位：億円）



新たな兆候のある新製品



外国語POP展開



インバウンド売上ランキング

順位	2019年 1-3月	2024年 1-3月
1	命の母	ナイシトール
2	サカムケア	命の母
3	ブレスケア	のどぬ〜る
4	のどぬ〜る	メガネクリーナー
5	アンメルツ	サカムケア

国内事業の、インバウンドの影響をご説明いたします。

第1四半期では24億円の結果となり、コロナ前ピーク時と同水準まで回復いたしました。

台湾、韓国、中国大陆で約30%ずつの構成を占めています。

また、第1四半期の売れ筋商品はコロナ前と大きくは変わっておりません。

米国・東南アジアは増収。中国大陸は昨年の熱さまシート特需の反動により微減収。Focus社の償却費が影響し、減益で着地。

(単位：億円)		2023年	2024年		
		1-3月	1-3月		
		金額	金額	対前期	対前期 (為替除く)
売上高	米国	26	38	+44.6%	+28.8%
	中国大陸	21	21	▲1.3%	▲7.0%
	香港地域	6	7	+11.0%	▲1.4%
	東南アジア	22	27	+20.7%	+12.3%
	その他	7	8	+13.7%	▲0.7%
	国際計	83	101	+21.4%	+10.5%
営業利益計		13	10	▲21.5%	▲32.3%
(率)		16.1%	-	10.4%	-

続きまして、国際事業です。

合計で 101 億円の売上で、対前年でプラス 21.4%の増収となりました。

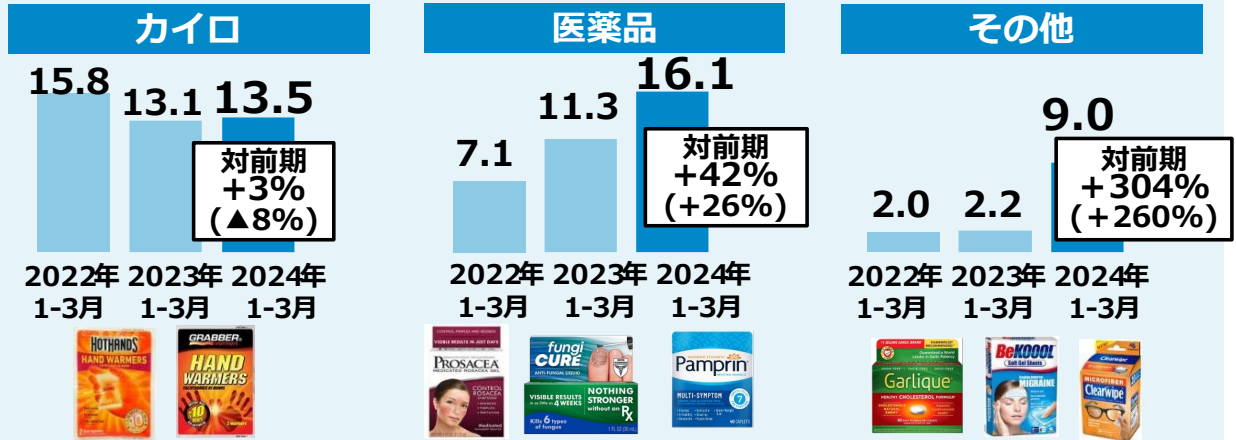
為替影響を除くと、国別でプラス・マイナスはございますが、トータルでは 10.5%の増収の結果を残すことができました。

営業利益は 10 億円で、Focus 社ののれん等が影響したこともあり、前年から 3 億円のマイナスとなりました。

医薬品とその他は、23年10月にM&AしたFocus社の連結影響や、為替の影響もあり増収。

（単位：億円）

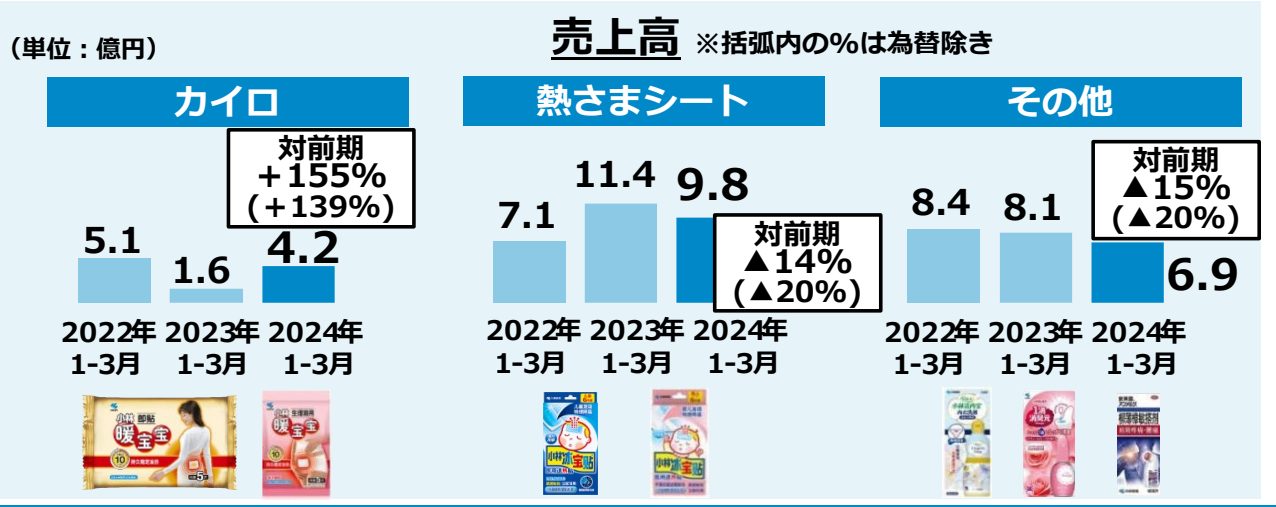
売上高 ※括弧内の%は為替除き



国別にみていきます。

まずアメリカです。Focus 社が連結に加わったこともあり、昨年と比較して、医薬品、その他は大きく増収となりました。カイロはほぼフラットです。

カイロは昨年、無返品契約への切替に伴う出荷抑制があり、その反動で増収。熱さまシートは昨年の特需による反動で減収。



中国大陸を見ていきます。

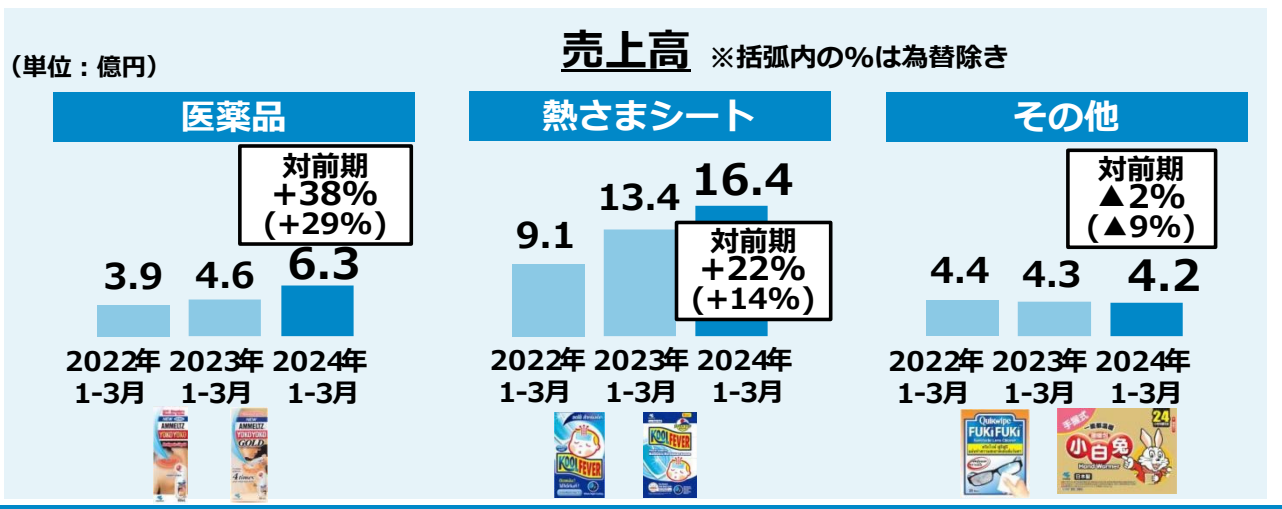
カイロにつきましては、昨年同期に、無返品契約への切り替えをともなう出荷抑制があり、その比較ではプラスとなっております。

熱さまシートは、昨年はコロナの特需がありましたので、その反動でマイナスとなっておりますが、一昨年と比較すると伸びております。

その他に含まれるアンメルツは、期ずれがございまして、マイナスの結果となりました。

医薬品はアンメルツが伸長。

熱さまシートは各種感染症拡大により需要が伸び増収。



東南アジアにつきましては、医薬品はアンメルツが伸長。

熱さまシートも、コロナ、インフルエンザなど各種感染症にも使用される生活習慣ができて増収の結果となりました。

国内外ともに、一部の 카테고리・エリアで影響が見られている

※数字は全て出荷ベース

国内（通販除く）

- ・ 前年比92%（ヘルスケア83%、日用品104%）
- ・ 特に食品カテゴリーが影響を受けている
- ・ インバウンドでもサプリメント等で一部影響が見られている

通販

- ・ 前年比66%

国際

- ・ 前年比128%（Focus社を除くと111%）
- ・ 一部地域（中国大陸など）で広告を中止していることもあり、影響が見られている

足元の状況につきまして、共有させていただきます。

4 月に関しまして

国内は、ヘルスケアは特に食品が影響があり前年比 83%でしたが、日用品は 104%となりました。

インバウンドは、サプリメント等は影響を受けているものの、その他の影響は軽微です。

通販は、4 月は定期解約が増えていることもあり、前年比 66%となりました。

国際は為替の影響もございますが、前年比 128%となっております。

中国大陸等で広告を中止していることもあり影響がでていますが、その他の地域では影響は出ておりません。

現時点では紅麹関連製品回収等に伴う影響について見極めることが非常に困難な状況であり、2024年12月期の通期連結業績予想を一旦取り下げ。今後、業績予想の算定が可能となった段階で改めて公表いたします。

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A) (2024年2月9日発表)	185,600	26,300	27,500	20,500	275.76
今回修正予想 (B)	未定	未定	未定	未定	未定
増減額 (B - A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2023年12月期)	173,455	25,780	27,330	20,338	268.16

最後に、通期の見通しに関してです。

今回通期の業績予想をいったん取り下げました。

今後、算定が可能となった段階で速やかに公表させていただきたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

以上、2024 年 12 月期第 1 四半期の決算業績のご報告を終了させていただきます。